



会員 宇都宮 隆展

多摩での弁護士生活

はじめに

私は、現在八王子所在の法律事務所に勤務し、日々弁護士業務に励んでいるところである。

このたびは、東京弁護士会に所属する60期の弁護士の中で登録番号が筆頭にきている関係からか、このリレーエッセイのトップバッターを務めることになった。本エッセイでは、私の弁護士としての属性の中で特徴的な事項の一つである「東京弁護士会多摩支部会員であること」に焦点を当ててみたい。

どうして選んだか？

私は、東京で司法修習をし、弁護修習時にお世話になった関係で、迷わず東京弁護士会で弁護士登録をしたのであるが、同時に住まいを23区から多摩地域に移し、多摩支部にも登録をした。

多摩地域を拠点に弁護士活動をしようと考えたのは、もともと私が生まれ育ったのが川崎市麻生区であり、地理的に親近感があったことに加え、東京地方裁判所八王子支部が大きく規模を拡大して立川へ移転する予定があると聞きおよび、今後の法的サービスのニーズ拡大が見込めそうだと考えたことによる。

現在の事務所には、弁護修習時に指導担当弁護士の方が紹介してくださったことをきっかけとして勤務することになったのであるが、紹介していただいたことにも、採用していただいたことにも、とても感謝している。

どこが気に入ったか？

多摩支部は本会に比べて規模が小さい分だけ弁護士同士の距離が近く、東京三会が合同で運営していることもあって、様々な弁護士と話をする機会がある。また、期を同じくする弁護士も10名強であり、お互い仲良く

なるのに適正な数である。これらのことは、修習地が東京であった私には極めて新鮮であって、東京弁護士会に所属して大規模な本庁での仕事しながら、地方の单位的な雰囲気味わうことができることには、とてもお得感がある。

さらに、八王子の街は近所に川が流れていたり、きれいな山の稜線が近くに見えたりするので、とても気分が和む。こちらに越してきてから、小学生の時以来久しぶりに釣りをしてみたところ、とても楽しく、今度は山にも遊びに行ってみたいと思っている。

どんな活動をしているか？

弁護士会との関係でいえば、多摩支部には独自の委員会活動が存在している。事務所が多摩弁護士会館まで歩いて5分足らずの場所にあることもあって、多摩支部の委員会活動には積極的に参加したいと思っていたところ、勢い余って4つの委員会に所属していることになってしまった。なかなか大変な状況であるが、委員会活動は多くの弁護士のためになることであろうし、委員会活動を通じて様々な弁護士の方と接することは、自分の弁護士としての幅を大きく広げてくれることであろうから、今のところは全く後悔していない。

なにが当面の課題か？

多摩地域の広さと人口の多さに照らすと、この地域を拠点として活動をする弁護士は必ずしも多くはない。特に刑事事件の件数が人口に比例することを考えると、多摩地域において刑事弁護に取り組む弁護士のニーズは大きいものがあるだろう。裁判員裁判の開始という刑事訴訟の新時代がすぐそこまでやって来ていることもあり、刑事弁護には積極的に取り組んでいきたいと考えている。